



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月10日

上場会社名 株式会社インプレスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9479 URL <https://www.impressholdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 大輔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 山手 章弘 (TEL) 03-6837-5000 (代)
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	11,141	6.2	960	0.7	1,030	0.2	952	57.7
2021年3月期第3四半期	10,494	—	954	—	1,027	—	603	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 931百万円(55.5%) 2021年3月期第3四半期 599百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	28.47	—
2021年3月期第3四半期	18.16	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。これにより、2021年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	16,570	9,333	56.3
2021年3月期	14,441	8,531	59.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 9,328百万円 2021年3月期 8,526百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	4.50	4.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2022年3月期(予想)の年間配当金は、設立30周年の記念配当(期末配当につき1.00円)を含めております。

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,700	6.1	750	△8.8	850	△8.7	850	25.7	25.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、通期の対前期増減率については遡及適用後の数値を用いて算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「会計方針の変更」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	37,371,500株	2021年3月期	37,371,500株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	3,914,143株	2021年3月期	3,933,353株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	33,449,536株	2021年3月期3Q	33,258,597株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、事業セグメント区分及び主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

ITセグメントの英普麗斯(北京)科技有限公司は、2021年6月4日付で清算終了しております。

また、航空・鉄道セグメントのイカロス出版株式会社は、2021年8月2日付の株式取得により当社の関係会社となりました。

なお、第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報 4. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

当社は、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当し、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。

事業セグメント区分	主要な事業区分		主要な事業内容	主要な会社
IT (IT分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス、ターゲットメディア等	㈱インプレス ㈱IAD
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		出版流通プラットフォームの開発・運営等	
音楽 (音楽分野に関するコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱リットーミュージック
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
	プラットフォーム事業		ECプラットフォームの開発・運営等	
デザイン (デザイン分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱エムディエヌコーポレーション
山岳・自然 (山岳・自然分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱山と溪谷社
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
航空・鉄道 (航空・鉄道分野に関するコンテンツ事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	出版・電子出版、ネットメディア・サービス等	イカロス出版㈱ ㈱天夢人
		ソリューション	企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作	
モバイルサービス (モバイル関連のコンテンツ事業及びプラットフォーム事業)	コンテンツ事業	メディア &サービス	電子出版、ネットメディア・サービス等	㈱ICE
		ソリューション	電子書籍ファイルの受託制作	
	プラットフォーム事業		電子コミックプラットフォームの開発・運営等	
その他			出版・電子出版、企業・自治体向けSP・PRツール及びWebサイト等の受託制作、出版流通プラットフォームの開発・運営等	㈱近代科学社 ㈱インプレスR&D ㈱クリエイターズギルド ㈱iDMP Impress Business Development(同)
全社			グループ経営・財務戦略の策定 グループ各社の経営管理、販売・物流管理	㈱インプレスホールディングス(当社) ㈱Impress Professional Works

(当第3四半期連結累計期間の業績全般の概況)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものです。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期連結累計期間の売上高は676,464千円、売上原価は27,610千円、販売費及び一般管理費は113,858千円、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は534,996千円それぞれ減少しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は10,213千円減少しております。

また、文中の事業区分別売上高は外部顧客への売上高を、事業セグメントの売上高はセグメント間の内部振替高を含んだ売上高をそれぞれ記載し、セグメント損益は営業損益をベースとしております。

当第3四半期連結累計期間につきましては、巣ごもり需要の一巡等による書籍の販売減はあったものの、電子書店の大型キャンペーン等による電子出版の販売増、音楽アーティスト関連の大型ムック本の販売及びIT分野のデジタル・ターゲットメディアの広告が好調を維持したことに加え、イカロス出版の業績を取り込んだことにより、コンテンツ事業の売上高は前年同期（8,474百万円）に比べ10.1%増加し、9,331百万円となりました。プラットフォーム事業につきましては、出版・電子出版・POD等の各プラットフォーム事業が堅調に推移したものの、コンテンツホルダーとの協業による電子コミックプラットフォーム事業が契約変更による計上方法の変更と前期の巣ごもり特需の反動等により大幅な減収となり、売上高が前期（2,020百万円）に比べ10.4%減少し、1,810百万円となりました。

これらの結果、売上高は、前年同期（10,494百万円）に比べ6.2%（646百万円）増加し11,141百万円となりました。営業利益につきましては、販売管理費が増加したものの増収により、前年同期（954百万円）に比べ6百万円増加し、960百万円となりました。経常利益につきましては、前年同期（1,027百万円）に比べ2百万円増加し、1,030百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、イカロス出版の子会社化に伴い、特別利益に負ののれん発生益187百万円を計上したこと等により、前年同期（603百万円）に比べ348百万円増加し、952百万円となりました。

(セグメント別の概況)

① IT

ITセグメントの売上高につきましては、ムックの刊行減やテレワーク需要等の一巡により書籍の出荷は減少したものの、電子書店の大型キャンペーン等による電子出版の販売が好調に推移したことにより、出版・電子出版は前年同期（2,297百万円）に比べ2.4%増加し2,352百万円となりました。また、デジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」（<https://www.watch.impress.co.jp/>）の広告収入の増加等により、ネットメディア・サービスは前年同期（977百万円）に比べ27.0%増加し1,240百万円となりました。加えて、ターゲットメディアは、ターゲット広告が好調を継続し、イベント収入も増収となったことで、前年同期（702百万円）に比べ26.2%増加し886百万円となりました。ソリューション事業においては、国内受託案件の減少等により、前年同期（369百万円）に比べ9.5%減少し334百万円となりました。これらの結果、コンテンツ事業の売上高は前年同期（4,347百万円）に比べ10.8%増加し、4,814百万円となりました。

プラットフォーム事業につきましては、パートナー出版社の電子出版及び書籍の販売も好調であったことにより、売上高は前年同期（157百万円）に比べ25.2%増加し197百万円となりました。

以上により、「IT」の売上高は、前年同期（4,535百万円）に比べ11.1%増の5,038百万円となりました。セグメント利益は、大幅な増収と収益性の改善により、前年同期（622百万円）と比べ358百万円増加し、981百万円となりました。

② 音楽

音楽セグメントの売上高につきましては、書籍や雑誌広告は減収となったものの、音楽アーティスト関連の大型ムック本の販売が好調であったことや、ギターマガジン等雑誌ブランドのWEB展開によりデジタル広告が好調に推移したこととパートナー出版社の書籍制作受託で補い、コンテンツ事業の売上高は前年同期（1,027百万円）に比べ14.5%増加し、1,176百万円となりました。

また、プラットフォーム事業につきましては、楽器マーケットプレイス「デジマート」(<https://www.digimart.net/>)における楽器店からの決済サービス収入が増加したほか、パートナー出版社の出版物の販売も好調に推移し、売上高は前期（282百万円）に比べ27.3%増加し、359百万円となりました。

以上により、「音楽」の売上高は、前年同期（1,319百万円）比17.3%増の1,547百万円となりました。セグメント利益は、増収と収益性の改善により、前年同期（44百万円）と比べ利益が100百万円増加し、145百万円となりました。

③ デザイン

デザインセグメントの売上高につきましては、Impress Business Development(同)から書籍レーベル「立東舎」の事業移管や、WEBセミナー等の新規事業により売上が増加したものの、前期の既刊書籍好調の反動等で書籍の出荷が大幅に減少したことにより、コンテンツ事業は減収となりました。

以上により、「デザイン」の売上高は、前年同期（823百万円）比1.3%減の812百万円となりました。セグメント利益では、減収に加えて収益性の悪化と販売管理費の増加により、前年同期（109百万円）と比べ123百万円減少し、13百万円の損失となりました。

④ 山岳・自然

山岳・自然セグメントの売上高につきましては、雑誌及び季節商品の出荷増による増収、キャンペーン等により電子出版の販売が好調に推移したほか、コロナ禍で落ち込んだ広告も若干の回復基調となり、コンテンツ事業は増収となりました。

以上により、「山岳・自然」の売上高は、前年同期（1,435百万円）比5.0%増の1,507百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費が増加したものの、増収と収益性の改善により、前年同期（111百万円）と比べ35百万円増加し、147百万円となりました。

⑤ 航空・鉄道

航空・鉄道セグメントの売上高につきましては、パートワーク受託案件の減収があったものの、書籍の出荷増に加え、イカロス出版の業績を取り込んだことにより、コンテンツ事業は大幅な増収となりました。

以上により、「航空・鉄道」の売上高は、前年同期（248百万円）比89.4%増の471百万円となりました。セグメント利益では、増収したものの、収益構造の見直し過程にあるイカロス出版が、営業損失を計上したこと等も影響し、前年同期（6百万円）と比べ62百万円減少し、56百万円の損失となりました。

⑤ モバイルサービス

モバイルサービスセグメントの売上高につきましては、電子出版は堅調に推移したものの、英語関連事業のデザインセグメントへの移管による減収等により、コンテンツ事業の売上高は前期（181百万円）と比べ16.8%減少し、150百万円となりました。

プラットフォーム事業につきましては、コンテンツホルダーとの協業によるデジタルコミック等の販売プラットフォームが契約変更による計上方法の変更と前期の巣ごもり特需の反動等により大幅な減収となり、売上高は前期（1,450百万円）と比べ24.4%減少し1,097百万円となりました。

以上により、「モバイルサービス」の売上高は、前年同期（1,635百万円）比23.5%減の1,251百万円となりました。セグメント利益では、収益性が改善し販売管理費が減少したものの、大幅な減収により、前年同期（351百万円）と比べ115百万円減少し、236百万円となりました。

⑥ その他

その他セグメントにつきましては、デザインセグメントへの事業移管による出版事業の減収があったものの、著者向けPOD出版プラットフォームサービスの販売増加や開発案件の受託等が好調に推移したこと等により、売上高は前年同期（625百万円）比0.4%増の627百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費が増加したものの、増収に加えて収益性が改善したことにより、前年同期（9百万円の損失）と比べ4百万円改善し、5百万円の損失となりました。

⑦ 全社

全社区分につきましては、純粋持株会社である当社と、グループの経営管理及び販売・物流管理機能を担う(株)Impress Professional Worksで構成されており、グループ会社からの配当、情報システム等の経営インフラの使用料及びグループ会社や出版社を中心とするパートナー会社の物流・販売管理に伴う手数料収入を売上高として計上し、経営インフラ等の運営に係る費用を負担しております。

全社区分の売上高は、グループ会社からの配当収入の増加等により、前年同期（1,503百万円）比15.3%増の1,732百万円となりました。セグメント利益では、販売管理費の増加はあったものの、増収により前年同期（238百万円）と比べ45百万円増加し、283百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、第2四半期会計期間におけるイカロス出版株式会社の完全子会社化による増加のほか、現金及び預金の減少や季節的変動要因による受取手形、売掛金及び契約資産や棚卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2,128百万円増加し、16,570百万円となりました。

負債につきましては、イカロス出版株式会社の完全子会社化による増加のほか、季節的変動要因による仕入債務等の増加や返金負債の増加等により、1,325百万円増加し7,236百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払いによる減少があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、802百万円増加し9,333百万円となりました。

自己資本は9,328百万円となり、自己資本比率は56.3%と前連結会計年度末（59.0%）と比べ2.7ポイントの減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年11月8日付で通期の連結業績予想を修正しておりますが、当第3四半期会計期間につきましては、概ね想定したような業績で推移いたしました。第4四半期会計期間につきましては、新型コロナウイルスが経済活動に与える影響を含め、年度末にかけて販売・広告収入の動向に不透明感はあるものの、概ね想定した業績の推移を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,884,107	6,085,716
受取手形、売掛金及び契約資産	3,797,969	5,875,736
商品及び製品	1,103,069	1,332,692
仕掛品	170,561	213,905
返品資産	218,465	207,248
その他	425,248	612,219
貸倒引当金	△696	△3,205
流動資産合計	12,598,725	14,324,314
固定資産		
有形固定資産	323,572	517,750
無形固定資産		
ソフトウェア	157,275	179,735
その他	14,445	15,338
無形固定資産合計	171,721	195,073
投資その他の資産		
投資有価証券	559,901	688,589
繰延税金資産	358,508	371,025
その他	429,231	473,348
投資その他の資産合計	1,347,641	1,532,962
固定資産合計	1,842,935	2,245,787
資産合計	14,441,660	16,570,101
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,373,078	1,699,504
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	125,000	125,000
未払法人税等	171,665	109,139
返金負債	434,842	1,024,916
賞与引当金	250,751	29,957
役員賞与引当金	—	39,307
その他	1,560,826	2,181,834
流動負債合計	4,266,164	5,559,659
固定負債		
長期借入金	262,500	200,000
繰延税金負債	3,023	7
退職給付に係る負債	1,273,230	1,422,902
長期未払金	104,242	53,571
その他	1,425	—
固定負債合計	1,644,420	1,676,480
負債合計	5,910,585	7,236,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,341,021	5,341,021
資本剰余金	1,655,543	1,656,260
利益剰余金	2,259,718	3,078,153
自己株式	△702,011	△697,942
株主資本合計	8,554,271	9,377,492
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△56	△3,517
為替換算調整勘定	35,124	—
退職給付に係る調整累計額	△63,052	△45,598
その他の包括利益累計額合計	△27,983	△49,115
非支配株主持分	4,787	5,584
純資産合計	8,531,075	9,333,961
負債純資産合計	14,441,660	16,570,101

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	10,494,965	11,141,861
売上原価	6,227,430	6,646,954
売上総利益	4,267,535	4,494,907
販売費及び一般管理費	3,313,476	3,534,264
営業利益	954,058	960,642
営業外収益		
受取利息	762	12
受取配当金	800	649
持分法による投資利益	69,562	70,831
その他	6,468	8,802
営業外収益合計	77,594	80,296
営業外費用		
支払利息	3,024	8,214
為替差損	440	393
子会社清算損	—	1,585
その他	469	684
営業外費用合計	3,934	10,878
経常利益	1,027,718	1,030,060
特別利益		
投資有価証券売却益	35,391	—
負ののれん発生益	—	187,179
為替換算調整勘定取崩益	—	50,626
その他	1,899	—
特別利益合計	37,291	237,806
特別損失		
事業撤退損	18,556	—
固定資産除却損	—	3,633
投資有価証券売却損	39,000	—
投資有価証券評価損	10,999	—
特別損失合計	68,556	3,633
税金等調整前四半期純利益	996,454	1,264,233
法人税、住民税及び事業税	393,140	313,027
法人税等調整額	△1,649	△1,779
法人税等合計	391,490	311,248
四半期純利益	604,963	952,984
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,004	797
親会社株主に帰属する四半期純利益	603,959	952,187

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	604,963	952,984
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,592	△3,460
為替換算調整勘定	△424	△35,124
退職給付に係る調整額	15,177	17,453
その他の包括利益合計	△5,839	△21,131
四半期包括利益	599,124	931,853
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	598,119	931,056
非支配株主に係る四半期包括利益	1,004	797

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、以下のとおり変更しております。

(1) 返品権付販売である出版販売における将来返品が見込まれる額について、従来は認識せずに売上総利益相当額である返品調整引当金を計上しておりましたが、収益認識基準の適用により、将来返品が見込まれる額を変動対価として販売時に収益を認識せず、返品資産および返金負債を計上する方法に変更しております。

(2) 出版取次等に対する売上歩戻及び販売奨励金等のリベートについて、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価額から減額する方法に変更しております。

当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期連結累計期間の売上高は676,464千円、売上原価は27,610千円、販売費及び一般管理費は113,858千円、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は534,996千円それぞれ減少しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は10,213千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	調整額 (注)3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	IT	音楽	デザイン	山岳・自然	航空・鉄道	モバイル サービス	計			
売上高										
コンテンツ事業	4,347,195	1,027,339	811,726	1,425,421	241,306	181,312	8,034,301	439,728	—	8,474,029
メディア& サービス事業	3,977,539	935,230	811,726	1,374,414	162,194	130,455	7,391,561	223,651	—	7,615,212
出版・電子出版	2,297,805	862,653	803,749	1,335,123	162,194	105,499	5,567,026	223,651	—	5,790,677
ネットメディア ・サービス	977,158	72,577	7,976	39,290	—	24,956	1,121,959	—	—	1,121,959
ターゲット メディア	702,575	—	—	—	—	—	702,575	—	—	702,575
ソリューション 事業	369,656	92,108	—	51,007	79,111	50,856	642,739	216,077	—	858,817
プラットフォーム 事業	157,888	282,106	—	—	—	1,450,975	1,890,969	129,966	—	2,020,936
顧客との契約から 生じる収益	4,505,083	1,309,445	811,726	1,425,421	241,306	1,632,287	9,925,271	569,694	—	10,494,965
外部顧客への売上高	4,505,083	1,309,445	811,726	1,425,421	241,306	1,632,287	9,925,271	569,694	—	10,494,965
セグメント間の内部 売上高又は振替高	30,908	10,004	11,634	10,168	7,604	2,784	73,104	55,496	△128,601	—
計	4,535,991	1,319,449	823,361	1,435,589	248,910	1,635,072	9,998,375	625,191	△128,601	10,494,965
セグメント利益又は 損失(△)	622,723	44,979	109,752	111,920	6,520	351,822	1,247,718	△9,218	△284,441	954,058

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、Webサイト等の受託制作及び出版流通プラットフォームの開発・運営等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△284,441千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△128,601千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,235,287千円、セグメント間の営業費用の取引消去1,079,446千円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	調整額 (注)3	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	IT	音楽	デザイン	山岳・自然	航空・鉄道	モバイル サービス	計			
売上高										
コンテンツ事業	4,814,777	1,176,474	795,953	1,495,948	463,237	150,831	8,897,222	434,258	—	9,331,480
メディア& サービス事業	4,480,060	1,052,268	795,953	1,451,896	417,007	100,414	8,297,600	172,556	—	8,470,156
出版・電子出版	2,352,750	937,169	775,573	1,402,862	414,599	100,235	5,983,191	172,556	—	6,155,748
ネットメディア ・サービス	1,240,787	115,098	20,379	49,033	2,407	178	1,427,886	—	—	1,427,886
ターゲット メディア	886,521	—	—	—	—	—	886,521	—	—	886,521
ソリューション 事業	334,716	124,206	—	44,051	46,230	50,417	599,622	261,701	—	861,323
プラットフォーム 事業	197,714	359,023	—	—	—	1,097,060	1,653,798	156,582	—	1,810,380
顧客との契約から 生じる収益	5,012,492	1,535,498	795,953	1,495,948	463,237	1,247,891	10,551,021	590,840	—	11,141,861
外部顧客への売上高	5,012,492	1,535,498	795,953	1,495,948	463,237	1,247,891	10,551,021	590,840	—	11,141,861
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25,949	11,769	16,853	11,089	8,133	3,193	76,988	37,095	△114,083	—
計	5,038,441	1,547,267	812,806	1,507,038	471,371	1,251,084	10,628,010	627,935	△114,083	11,141,861
セグメント利益又は 損失(△)	981,697	145,822	△13,676	147,525	△56,322	236,772	1,441,818	△5,199	△475,975	960,642

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、出版・電子出版、Webサイト等の受託制作及び出版流通プラットフォームの開発・運営等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、調整を行い、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△475,975千円には、セグメント間の内部売上高の取引消去△114,083千円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,399,979千円、セグメント間の営業費用の取引消去1,038,087千円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間より、「航空・鉄道」において、イカロス出版株式会社を株式取得により連結子会社としたことに伴い、連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度末に比べて、当第3四半期連結会計期間末の「航空・鉄道」におけるセグメント資産が、1,950,790千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「航空・鉄道」において、イカロス出版株式会社を株式取得により連結子会社としたことに伴い、187,179千円の負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

なお、当該負ののれん発生益はセグメント利益に含まれておりません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

また、当社は、2021年10月26日開催の取締役会において、経営管理区分を見直すことといたしました。

具体的には、新たに「航空・鉄道」セグメントを設けることとし、これまで「その他」として管理していたイカロス出版株式会社及び株式会社天夢人の2社を、当第3四半期連結会計期間より「航空・鉄道」セグメントとして管理しております。これに伴い、報告セグメントを「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」の6区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法及び区分により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。